



子どもの心身の発達と 野外活動

第190回 ムツレ教室リーダー養成プログラム
2016年11月5日（土）

自然の階段

— 子どもの発達に
合わせたプログラム —

階段のすべてのステップが 必要です



日本野外生活推進協会の環境教育プログラム

森のオープンブス
ワール(0~1歳)
2016年開発



初めてママやパパになった人や、平日子どもたちと家にいる保護者のための活動です。森に赤ちゃんと出かけ、遊び、歌い、お弁当を食べます。森にはどんな天候でも出かけます。

森のクノッペン教室
(1~2歳)
1990年開発



クノッペン(Knoppchen)とは「小さい芽」という意味。1・2歳のころは自分の身体について色々発見する時です。自然の中でもいろいろなものを五感を使って発見していきます。まずは自然の中にでかけましょう

森のクニュークナ教室
(3~4歳)
1987年開発



遊んだり、歌ったりする活動を通して身近な自然を体験し、自然の中で楽しく快適に過ごすことを学びます。そのことによって心身の発達を促します。テントウムシの「ニッケ」が登場します。

森のムッ教室
(5~6歳)
1957年開発



五感を使ってさまざまな生き物とふれあうことで、自然感覚を身につけ、生き物は互いに依存しているというエコロジーの基本を学びます。架空の妖精「ムッ(土壌の意味)」が登場します。

森のストーバル教室
(小学校低学年)
1963年開発



エコロジーをさらに深く学び、人間が自然の一部であることを理解します。この時期の子どもは冒険やスリルを求めるので、真冬のサバイバルキャンプなどワクワクする体験をしながら自然と関わります。

フリールツァ教室
(小学校高学年)
1970年開発



人が環境に与える影響を知り、自然を守るために何が必要かを考えます。自然保護に対して自分の考えをもち、何ができるかを話し合ったり、テント張り、炊飯、カヌーなどの高度なテクニクを学びます。

※教室は「リーダー養成講座」を終了したリーダーによって実施する。

※綿密なプログラムを立てて実施する。

※どんな天候の日も野外で活動する。

「幼児の脳の発達と自然」

札幌医科大学医学部脳神経科講師 鵜飼渉先生のお話しより

- **自然がないと病気になる確率があがる**
- **遺伝子は生きている間にかわる**

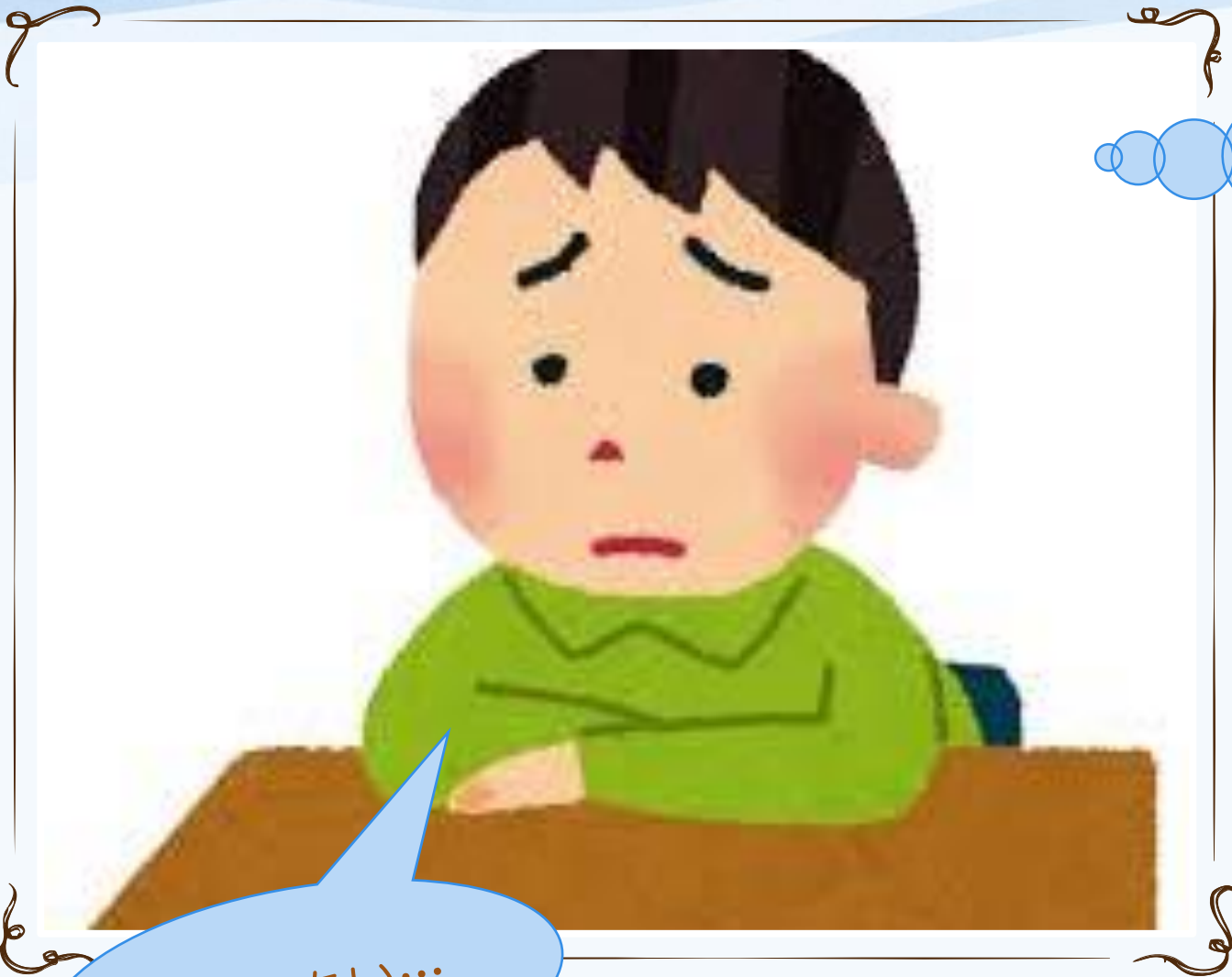


ワクワク
ドキドキ



元気な子どもの脳は
「ドーパミン」で溢れて
いる！

「ドーパミン」は子どもの学習
モチベーションを刺激します。



つまらない...



均質な環境が脳に
影響を及ぼす

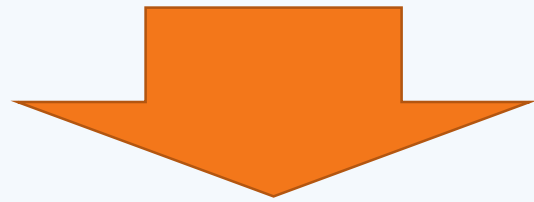


後天的な遺伝子変異を起こす



精神疾患の発症に影響する

自然（活動）がこころの病の発症を未然に防ぎ、強くて柔軟なこころを育む



『子どもの脳は
遺伝子から変わる！』

余談ですが…

なぜ、架空の妖精「ムツレ」なんでしょう。




だから…かな～

「最高の道徳性」＝「最高の人格」
「最高の人格」＝「自己実現する人間」
～自分の可能性をじゅうぶんに実現しきっている人間～

- 1 現実をあるがままに認識することができる
- 2 自己や他者、そして自然をあるがままに受容することができる
- 3 自発性、自然なところの動きに従っていきている
- 4 自分にはあまり関心がなく「問題中心」である
- 5 孤独とプライバシーを好む
- 6 自分が属している文化や集団から独立し、自立している
- 7 日々、イキイキと生きている
- 8 **神秘体験や至高体験をしばしば体験している**
- 9 他者と深い結びつきをもつ
- 10 人との深い本質的なつながりをもつ
- 11 民主的な人格構造をもっている
- 12 手段のための目的を犠牲にしてしまうことがない
- 13 敵意のないユーモアを使う
- 14 **創造性がある**
- 15 **自分が属している特定の文化を超克している**

アブラハム・マズロー（人間性心理学）



リーダーの心得

リーダーは自然への案内人

- 子どもと一緒に活動を楽しむ
- 子どもと一緒に発見する
- 子どもと一緒に感動する
- 子ども一人ひとりをしっかり見つめる
- いい答えを見つけようとするのではなく
いい質問を投げかける
- 五感を使って観察し、体験を通して学ぶように促す
- 安全に活動するために準備をしっかりと整える
- 自然への気遣い、エチケットを示す
- 勇気と決断！

